

7.2.7 施設・設備

<2003 年度に設定した目標>

1. 大学院拡充にともなう教室、研究スペースの確保

【評価項目 13-0-1】 施設・設備等の整備

(必須要素) 大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

(必須要素) 大学院専用の施設・設備の整備状況

(選択要素) 大学院学生用実習室等の整備状況

(現状の説明)

大学院専用の教室は2部屋（211、212号教室）あり、現状の大学院の講義には問題ない。大学院生専用のゼミ室や自習室などはない。大学院生のゼミには学部と大学院共用のゼミ室や学部用の講義室が使用されている。大学院生は各研究室に配属されているが、そこで大学院生専用の椅子、机を各自に与えられているのはむしろまれである（特に実験系においては）。大学院生が研究を行う（特に実験）スペースも非常に狭い。

(点検・評価の結果)

大学院講義用の教室は一応確保できていると評価できる。しかし、大学院生の増加や生命科学専攻の設置により、院生用の教室、ゼミ室、研究スペースは不足してきている。院生のゼミのためのゼミ室は十分とは言えない。大学院生の研究スペースの狭さはかなり深刻で早急に問題が解決されなければならない。現状では、学部用の教室を援用して補完しているが、将来の大学院拡充へ向けて大学院用のスペースを確保することは大きな課題である。

(改善の具体的方策)

大学院生用の教室、ゼミ室、実験スペースの不足を解決するには大学院棟の建設が切に望まれるが、当面は倉庫の整理などによりレンタルラボ用スペースの拡充を図ることで対応していく。

【評価項目 13-0-2】 先端的な設備・装置

(選択要素) 先端的な教育研究や基礎的研究への装備面の整備の適切性

(選択要素) 先端的研究の用に供する機械・設備の整備・利用の際の、他の大学院、大学共同利用機関、附置研究所等との連携関係の適切性

(現状の説明)

先端的な研究や教育内容への装備面の整備はかなり積極的に行われている。そのために私立大学研究高度化推進事業の推進、私学助成の活用、NEDO、JSTなどの外部資金の導入、科学研究費補助金の獲得などに努力がなされ、実績を挙げている。具体的な先端的な設備・装置としては、たとえば、高機能分子線エピタキシー装置、高波長域ポンプ・プローブ極短パルスレーザーシステム、飛行時間型質量分析装置、バーチャル・リアリティー

ルームなどがある。

理工学研究科は学内唯一の理系研究科であるため、学内の他機関と共同利用する先端的设备はない。学外の共同利用施設については、SPring-8、全国大学共同研究機関である分子科学研究所、大阪大学蛋白質研究所などが利用されている。

(点検・評価の結果)

教員、大学院生が研究するための先端的设备はまずまずの整備状況であると評価できる。毎年、私学助成により高度な先端的设备・装置が導入されている。ハイテク・リサーチ・センターやオープン・リサーチ・センターなどの設置（【評価項目9-2-1】研究活動参照）にともなって導入された設備装置は、大学院生中心に使用頻度は極めて高く、十分活用されている。

(改善の具体的方策)

先端的设备・装置の整備をいっそう進めるため、外部資金の導入にこれまで以上に努力していく。

【評価項目 13-0-5】 本校以外に拠点を持つ大学院の施設・設備等

(選択要素) 本校以外の場所にも拠点を置き、教育研究指導を行う大学院における施設・設備の整備の適切性

(現状の説明)

理化学研究所発生・再生科学総合研究センターと連携関係にあるが、同研究所の施設・設備等はわが国のトップクラスである。

(点検・評価の結果および改善の具体的方策)

連携関係にある研究センターの施設・設備は、学生に先端的研究を通じた教育をするのに申し分ない。

【評価項目 13-0-8】 組織・管理体制（理工学部「7.1.7 施設・設備」参照）

(必須要素) 施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況

(必須要素) 実験等に伴う危険防止のための安全管理・衛生管理と環境被害防止の徹底化を図る体制の確立状況